

仕事の意義知ろう

職業探検少年団 日立で7月誕生

小中学生に面白いと思った職場の見学に歩いてもらい、先々での体験を通じて勤労観や職業観を身につけさせる。こんな試みが日立市で7月からスタートする。名付けて「市職業探検少年団」。スポーツ少年団の職業版で、同市教委と日立商工会議所が共催し、農、林、水産業、ものづくり、あきんど、IT、福祉の7コース（ITと福祉は中学生のみ）をつくる。

対象は日立市内の小学5、6年生と中学1〜3年生。コースごとに団を結成し、週末や夏休みなどを活用し、年度いっぱい、毎月1、2回、それぞれの職場を訪ねる。

たとえば「農業」なら市内の地域活性化グループが運営する農場で米やサツマイモづくりにあたる。「水産業」では久慈、会瀬漁港で漁船に試乗し、水揚げや魚の選別を試みる。「もの

のづくり」では市内の工場で簡単な加工作業を体験する。

市教委によると、小学5、6年生は農林水産業を学ぶが、現場での体験はない。また中学では2年生が職場訪問に出るが、2日間だけなのでじっくり学べないという悩みがあった。

そこで、いろいろな現場で話を聞きながら、汗をかき、職業選びと働く意義を分かってもらおうと、職業探検少年団が考え出された。市教委の引田道夫生涯学習課長は「職業観を学ぶには高校での職場体験では遅すぎる。期間も長くして、じっくり学べるようにした」と狙いを説明する。

日立商工会議所が今年度の団員を募集している。各団15〜20人で年会費5000円。問い合わせは同会議所（☎0294・22・0128）へ。「福祉」は別途募集する。

農業やITなど7コース、団員募集中